

第70次 印旛地区教育研究集会

国語科 「話すこと・聞くこと」分散会 提案資料

研究主題

自己の生き方を振り返り、心豊かに人と関わり合う児童の育成
～主体的に考え、話し合い活動に取り組む授業づくりの工夫を通して～



佐倉市立西志津小学校 国語研究部

1. 研究主題

自己の生き方を振り返り、心豊かに人と関わり合う児童の育成
～主体的に考え、話し合い活動に取り組む授業づくりの工夫を通して～

2. 主題設定の理由

(1) 新学習指導要領から

この数十年で社会の仕組みは大きく変わってきた。生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、急速に変化しており、予測が困難な時代となっている。このような中で今回の学習指導要領の改訂により、国語科として育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定し、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。そして「思考力、判断力、表現力等」の内容として、「話すこと・聞くこと」領域の構成が学年に応じて今までよりも更に明確に位置づけられた。「話し手」と「聞き手」との関わりの中で相互に密接に関連させて、意図的に指導していく必要性がある。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標は

思いやりの心をもち、互いに学び合う、たくましい児童の育成

である。そして目指す児童像として

○思いやりのある子（徳）

- ・相手の立場に立って考えられ、気遣いのできる児童。
- ・自分から明るく元気に「おはようございます。」「ありがとうございます。」「ごめんなさい。」が言える児童。

○学び合う子（知）

- ・主体的に学習に取り組むとともに、他の人との関わりの中で自分や他の人の良さを見だし、更に自分を高めようとする児童。

○たくましい子（体）

- ・夢や目標に向かって、あきらめることなく、主体性（自覚と誇り、責任）をもってやり遂げる意志の強さと体力をもった児童。

を掲げている。これを受けて、学校経営の重点と方策では、「主体的に学習に取り組むとともに、他との関わりの中で自分や他の人の良さを見だし、更に自分を高めようとする児童」の育成を目指している。

(3) 児童の実態から

本校は、全校870人を超える大規模校である。各学年4～5クラスで毎年クラス替えを実施している。大勢の友達と交流できる環境であるが、実際には周りの様子を窺って行動する児童が多く、なかなか主体的に動けないのが実態である。本校の児童の課題としては、以下のものがあげられている。

- ・打たれ弱い

- ・ 困難に対して向き合えない
- ・ 自己中心的 友達より自分優先の傾向
- ・ ”伝える”はできるが”伝え合う”はできない（友達の意見が聞けない）
- ・ 自発的な挨拶ができない。

これらの実態から、

- 自分自身の言動を振り返り、客観的に見る視点を養う
 - 困難（つまづき）から逃げるのではなく、粘り強くやり抜く力を養う
 - 主体的に伝え合いを行い、自他を尊重し、認め合える心を養う
- ことを重点目標として指導に当たっている。

令和元年度から本校では研究教科を道徳科に設定し、伝え合う力の育成や議論する力の育成に取り組んできた。しかしながら、「うまく伝えられない」、「話はできても話し合うことはできず、議論に深まりが見られない」等の課題がある。これは、他の教科や活動においても言えることである。よって、国語科で系統的な『話す・聞く』の指導に取り組むことが必要であると考えられる。

3. 研究仮説

話し手が自信をもって考えを伝えようとし、聞き手が共感的に聴いてくれるような話し合いができれば、主体的に話し合い活動に参加することができ、心豊かに人と関わり合うことができるだろう。

〈手立て1〉 ～自信をもって考えを伝えようとする**話し手**を育てるために～

- ・ 話す内容が明確になるような構成…ワークシートの活用
自分が話す内容を整理したり、自信をもって発言できるようにするために、ワークシートを工夫する。
- ・ 話し方のスキルを系統的に整理して提示する。
声の大きさや発音などのスキルのなもの他に、内容的なものについても話すときのポイントを明示する。更に、資料の活用の仕方についても指導していく。

〈手立て2〉 ～共感的に聴ける**聞き手**を育てるために～

- ・ 聞くポイントを明確に提示する。
「自分が聞く必要のあること」と「話し手が伝えたいこと」の両面を意識して聞くことが大切なので、その両面を意識させるために掲示物やワークシートを活用する。
- ・ 聞き方のスキルを系統的に整理して提示する。
傾聴（相手の立場に立って話を聞く）、反応（うなずき・あいづち）、表情（やわらかく聞く姿勢）等について、学年に応じて指導していく。

4 研究方法

「話す・聞く」の授業実践を通してよりよい方策を考えるとともに、その他の場面でも「話す・聞く」の活動を取り入れた授業について、広く検証をしていく。

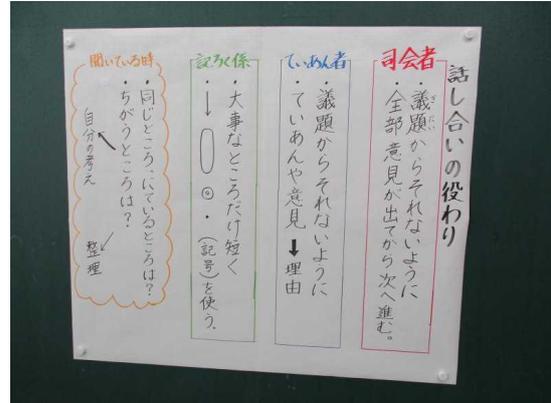
5 授業実践

(1) 第3学年の実践

<p>単元名</p>	<p>話し合っ、みんなの考えをまとめよう 「図書まつりについて話し合おう」</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たし、学習の見通しをもってグループで話し合おうとしている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・目的や進め方を確認し、司会などの役割を果たしながら話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。 【思考力・判断力・表現力等 A】 ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方を理解し、使うことができる。 【知識及び技能】
<p>授業の実際</p>	<p>(指導案 資料1)</p>
<p>成果と課題</p>	<p>○本校において、図書まつりは毎年児童が楽しみにしている行事の一つである。また、グループに分かれて準備や練習などに取り組むため、自主的に取り組む姿が多く見られることもある。その「図書まつり」を議題としたため、発言が苦手な児童も意欲的に意見を出し合い、話し合いに参加しようとする意欲を高めることができた。</p> <p>○話し合いの進め方だけでなく、どのような事に気を付けながら聞いたら良いか全体で確認したことで、内容に着目しながら聞くことができた児童が多く、お互いの提案や意見を聞いて自分の考えを述べることができた。</p> <p>○司会の進行カードや提案シートの活用、記録の仕方の練習をしたことで、児童が自信をもって話し合いに参加することができた。発言が苦手な児童も同じ土俵で話し合う事ができたと考えられる。</p> <p>△議題からそれないように意識して話し合うことは多くの児童ができていたが、目的と合わせて意見を考えられる児童が少なかった。話し合い中も目的を意識できるよう視覚化させるなどの手立てが必要だった。</p> <p>△本時の話し合いだけでなく、学級活動や他教科においても話し合いの場面は多くある。意見を一つにまとめていく話し合いの場面では、今回の話し合いの進め方を基としながら話し合いを進めていけるよう日々の活動等においても継続的に指導する必要があると感じた。</p>



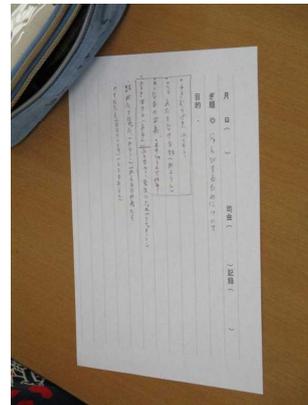
司会の進め方（進行カード）



話し合いの役割（掲示資料）



話し合い活動



記録用紙（相違点に着目して）



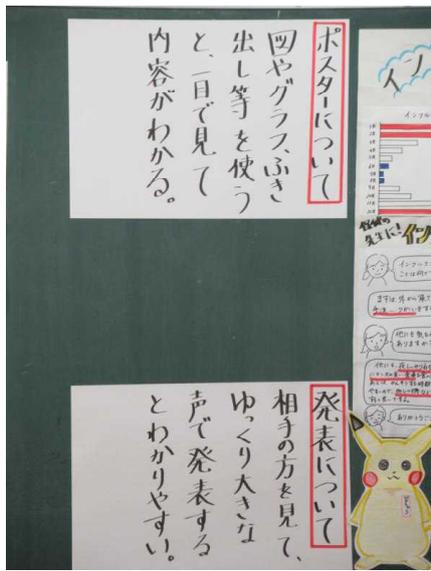
話し合い活動



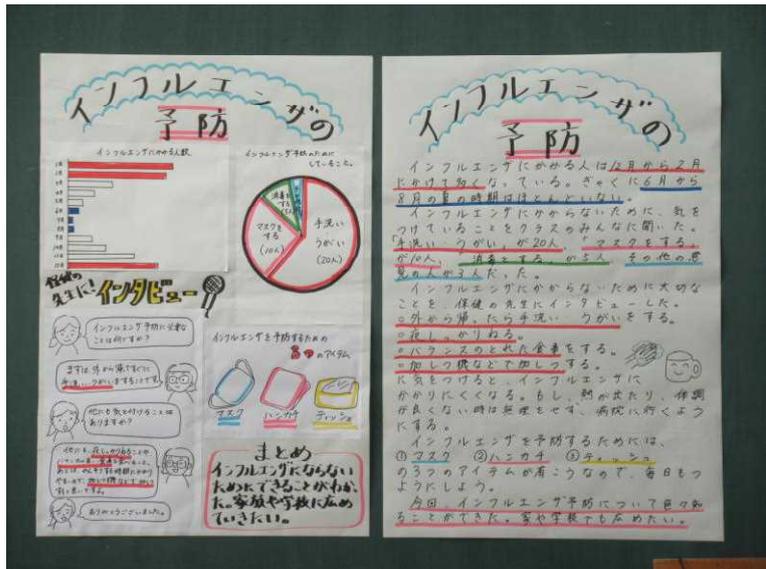
話し合い活動

(2) 第4学年の実践

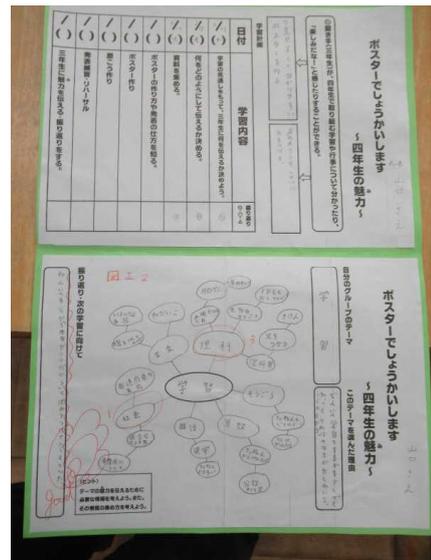
<p>単元名</p>	<p>ポスターを使って発表しよう 「ポスターでしようかいたします～4年生の み力!～」</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫し、見通しをもって調べたことを発表し合おうとしている。 【学びに向かう力・人間性等】 ・「話すこと・聞くこと」において、話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫している。 【思考力・判断力・表現力等】 ・比較や分類の仕方、必要な語句などの書き留め方、引用の仕方や出典の示し方、辞書や事典の使い方を理解し使っている。【知識及び技能】
<p>指導の実際</p>	<p>(指導案 資料2)</p>
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ ポスターを使って発表する相手や内容を児童に考えさせ、調べたり発表したりする目的を明確にしたことで、児童が主体的に学習に取り組むことができた。また、全員が課題を調べたり記事を書いたりできるように、グループの人数を4～6人に設定したことで、一人一人が意欲をもてた。 ○ ポスターの作り方や発表の仕方を二例提示し、児童がどのようなことに注意してポスターの作成や発表をしたら良いのか気付けるようにした。また、気付いたことを自分の言葉で説明できるよう、児童がすぐに違いに気付けるように差異を明確にしたことと、差異を児童の言葉できちんと説明できるように説明の仕方を提示した。 ○ 学習の見通しをもてるように、ワークシートを工夫した。単元の進め方を児童と一緒に計画し、ワークシートに書き込んだ。また、毎時間記入した計画に戻って次時の見通しをもつとともに、振り返りができるようにした。学習に必要なことをワークシートにまとめることで、学習の足跡が残り、困った時や悩んだ時に活用するなど、学びの定着を図ることができた。 △ 調べたことを活用してポスターを作成する中で、相手を意識して視覚的に分かりやすくまとめられる児童が多かったが、3年生に4年生の魅力を伝える、という目的がやや忘れられがちだった。3年生に分かるだけでなく、4年生の魅力をどのように伝えたら良いか、児童が考えを深められるような手立てが必要だった。 △ 3年生に発表するために発表メモを作成したが、発表に不安のある児童は、メモが原稿のようになってしまって、相手を見て発表することができるようになるまで時間がかかった。発表するために必要なことをピックアップし、暗記ではなく、ポイントを追いながら発表できるようになるよう、発表メモの形を工夫する必要があった。また、新型コロナウイルスの影響のため、練習の段階で学習が終わってしまい、実際に3年生に発表することができなかった。



ポスターや発表の観点（揭示物）



ポスター見本（教師作成）



思考ツールで考えを深める



グループでの話し合い活動

(3) 第5学年の実践

<p>単元名</p>	<p>多様な情報を読み取り，自分の考えを深めよう 世界遺産 白神山地からの提言－意見文を書こう</p>
<p>単元の目標</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・白神山地に関する多様な文章や資料を読み，それを根拠にして自然保護に対する自分の考えを深めようとする。 【学びに向かう力・人間性等】 ・自然保護についての立場を決め，話し合う中で主張の根拠となる事例を比較したり関係づけたりして整理することができる。 【思考力・判断力・表現力等 A】 ・資料の文や言葉を引用したり，図表やグラフなどを用いたりし，自分の考えが伝わるように書くことができる。 【思考力・判断力・表現力等 B】 ・自然保護に関する文章の構成に着目することができる。 【知識及び理解】
<p>指導の実際</p>	<p>(指導案 資料3)</p>
<p>成果と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の考えを自信をもって伝えさせるために，意見交換会の前に同じ意見の友達と話し合いを行った。自分と同じ立場の友達でグループを作って話し合わせたことで，自分の考えの不足しているところを補ったり，自分の考えに自信を持ったりすることができた。 ○話す内容について，黒板に自分の考えを短冊で明示した。これにより，自分の立場を明確に示し，話し合いに主体的に参加することができた。 ○意見交換会は，相手を論破することではなく，違う意見に耳を傾けることで自分の考えをより明確にするためのものであることを初めに確認した。このことにより，どちらがいいか悪いかという二者択一の聞き方ではなく，相手の考えのよいところを聞くように心がけていた児童が多かった。これは，授業の終末で行った意見文の中に現れていた。 △自分の話すべきことを話すだけで精一杯で，どうしたらより効果的に話せるかというところまで気を配れる児童は少ない。更に聞き手の立場に立って話すことはほとんどできていない。まだまだ話す経験が足りないと思われる。更に色々な場面で話す活動を意図的に設けていく必要を感じる。 △聞き方のスキルをもう少し鍛える必要を感じる。話し合いがよいキャッチボールにならないことが多い。これは，聞き手が育っていないことも大きな要因である。話す経験を積んでいくとともに，より効果的に聞いていく経験も教師が意図的に仕掛けていく必要がある。



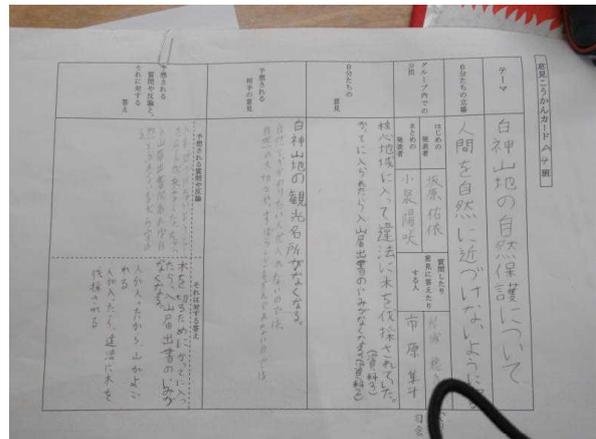
話し合いの進め方（掲示物）



グループでの話し合い



自分の立場を明確に示す（思考ツールの活用）



意見交換カード

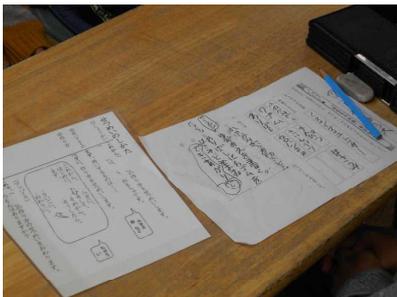


意見交換会

(4) その他の実践

図書まつりにおける国語科との合科

単元名：作り方をせつめいしよう ～おもちゃ大会をひらこう・図書まつりをしよう～ (2学年)		
	国語科	図書まつり (生活科)
導入	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだおもちゃについて、順序に気を付けて説明することを理解し、学習の流れをつかむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい本を伝えるための発表方法を考え、話し合う。
展開	<p>発表の準備において</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きつつき」の説明文を参考に、説明するために必要な事柄を考える。 <u>同じおもちゃ</u>を作るグループで、実際に作りながら順序を考えメモに書く。 <ul style="list-style-type: none"> ○順序 ○付け足すこと 説明の仕方を考え、<u>同じおもちゃ</u>を作るグループ内で練習し、アドバイスし合う。 <ul style="list-style-type: none"> ○順序を表す言葉 ○実物の見せ方 	<ul style="list-style-type: none"> 「何を」「どのように」「誰が」準備していくかを話し合い、分担する。 分担に沿って活動し、振り返りの時間で次回へのめあてを持つ。 ○活動の始めと終わりに各グループで確認の時間を設定。 「この本を選んだ理由」「自分たちの思い」の伝え方を話し合う。



<ul style="list-style-type: none"> ・違うおもちゃを作った児童でグループを構成し、作り方の説明をする。 <ul style="list-style-type: none"> ○実際に作りながら、「分かりやすい点」「分かりにくい点」を話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル <ol style="list-style-type: none"> ①グループ内 ②1グループ対1グループでの見せ合いを行い、改善点を見つける。 ③学級内でのリハーサルを行い、改善点を話し合う。
---	---

<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書まつり <ul style="list-style-type: none"> 2回発表を行う。1回目後、振り返りをし2回目を行う。  <p>怪盗が活躍する話の紹介—各自のおすすめ—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの発表を振り返る。 <ul style="list-style-type: none"> スキルのなもの (声の大きさ, など) 内容に関するもの 	 <p>昔話の紹介—中心場面だけを劇化して伝える—</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎相手に伝わるようにはっきりと話すことができたか。 ◎発表の仕方を工夫できたか。
---	---

<p>成果と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○一人が一つのおもちゃを担当したことで、責任感を持って取り組むことができた。また、説明方法を繰り返し練習したことで自信をもった発表につながった。 ○同じおもちゃのグループ→違うおもちゃのグループと段階を踏んだことで、相互評価することができ、児童同士のアドバイスにつながった。また、図書まつりのリハーサルの際にも、的確なアドバイスを相互に行っていた。 ○説明の仕方を話し合っってマニュアル化し、掲示したり発表練習の際に手元に置いたりしたことで、安心感をもって取り組むことができた。 <ul style="list-style-type: none"> ●国語科の学習が、図書まつり準備の話し合いの中で十分に生かせなかった。発達段階に合わせた少人数、学級全体での話し合いの仕方の習得が必要だと感じた。 ●発表を聞くときの観点が内容でなく表面的（声の大きさ、表情）なものにとどまってしまう。6学年通しての「聞き方」のポイントを、明確にしていく必要がある。

単元名：資料をくふうして効果的に発表しよう

～ひみつを調べて発表しよう～

(5年)

	国語科	図書まつり（総合的な学習）
導入	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが調べたことを資料や見せ方などを工夫することによって効果的に発表することを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 紹介したい本や内容を伝えるためにどんな資料が必要になるか、資料の工夫に視点を向けさせる。
展開	<p>発表の準備において</p> <ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことの中心を考える。 内容に添った分かりやすい資料づくりの方法を学習する。 構成を考える。 内容の配列・順序 時間の配分 発表の準備をする。  <p>どこにどんな資料をおけばよいか話し合いをしている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの決めたテーマで一番伝えたいことを絞らせる。 アンケート、写真、地図などの活用をする。 国語科の構成表を活用して発表内容を整理させる。 中間発表会、グループ内での見せ合いを行い、改善点を見つける。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> 図書まつり <p>2回発表を行う。1回目の後、振り返りをし2回目を行う。</p>  <p>資料の活用。</p>	 <p>アンケートを提示して発表。</p>

- ・自分たちの発表を振り返る。
スキルのなもの
(声の大きさ, など)
資料作りや内容に関するもの



グループで振り返りをしている。

- ◎相手に伝わるようにはっきりと話すことができたか。
- ◎内容や伝えたいことが効果的に伝わるように資料や発表の仕方を工夫できたか。



スキルのなことと内容的なことで色分けして
全体で振り返る。

成果と課題

- 国語科の授業と並行して図書まつりの準備を行ったことにより、よい発表にするために大切なことが明確に児童に伝わり、意欲的に取り組むことができた。
- 伝えたいことの中心を絞らせたことで、構成にメリハリが付き、更に発表方法も劇・ペーパースート・ブックトーク・新聞にまとめる…などの様々な方法を考えて発表することができた。
- 構成表を活用することで、時間配分がしっかりできた。また、どの順番で発表するとより効果的か、考えることができた。
- 構成表を使う中で、それぞれの発表をつなぐ言葉が不足していることが分かった。
お決まりの「次は〇〇さんです」ではなく、もっとその場に即した言い方（「〇〇さんは・・・について話していましたが、逆に…もあります。次はそれについて紹介します」など）を学習し、使えるようにしていく必要がある。
- 話すことは、だいぶ上手になってきたが、聞き手が育っていないことを感じている。どのように聞くべきか更に継続的な指導が必要である。
- 振り返りをした際に、今まではスキルのな声の大きさや間のとり方ばかりに目が向いていたが、少しずつ内容に関する反省もできるようになってきた。ややもするとスキルのなことに偏ってしまうので、更に明確な規準を設ける必要がある。

6 成果と課題

今回、「話す・聞く」の単元以外でも、日々の学習活動を通して「話す・聞く」スキルを向上させることを目的として、あえて単元を限定せずに幅広く取り組んでみた。実際、やってみて、至極当たり前のことであるが、教師が「話す」「聞く」スキルを向上させようと意識をもって単元の構成をしたり、授業を構築したりすることで、確実に児童の力は付くことが分かった。本校の児童は、話したり聞いたりする力がないと感じていたが、それは、そういう機会を教師側が意図的に作り出していなかったことにも一因がある。教師側が、計画的に内容を吟味していくことが大切であると感じた。

成果としては、思考ツールや話し方のひな形など児童が安心して取り組めるための資料を用意することが有効であることが分かった。また、少人数での話し合いは回を重ねるごとに自信をもって楽しくできる児童が増えていった。本校は道徳科の研究を行っているが、道徳科の授業の中でも「話し合いが楽しい」と考える児童が増えてきている。(資料4)自分の考えを伝えることに抵抗感が少なくなってきたことを感じている。今後も更に色々な場面で話し合いの機会を作っていくことにより、児童が自信をもって話そうとすることができると考える。

一方、「聞く」こと、「話し合う」ことは、まだまだ有効な手立てが講じられず、不十分である。特に、「相手の意見を聞いた上で自分の考えを話す」ことができない。そのため、話し合いに深まりが見られないのが現状である。聞くための掲示物や資料、方策については、もう少し考えていきたい。

残念なことに、方向性が見えてきたところで、コロナウイルス感染症予防措置のために休校となり、その後も話し合い活動が制限されてしまった。ただでさえ、話すことに抵抗のあった児童が、話さない状態での学習を行う中で、コミュニケーション能力が低下してしまったことは否めない。ただ、今回このような状況になり、改めて話し合い活動の大切さや学び合いの面白さに児童も私たち教師も気付いたところである。今後の教育活動に生かしていきたい。